

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076400193		
法人名	有限会社 グループホーム ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみⅡ		
所在地	〒820-1111 福岡県飯塚市勢田173番地3	TEL09496-2-4623	
自己評価作成日	平成23年 2月 18日	評価結果確定日	平成23年03月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27	TEL 093-582-0294	
訪問調査日	平成23年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームの施設長、管理者、職員は、チームワークと思いやりで、いつも笑顔で温かいアットホームな雰囲気づくりを目指します。また、いつまでも、健康で安心して住み続けることの出来る支援体制を確立し、全職員が頑張っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム「ほほえみⅡ」は緑の自然環境に恵まれ、スーパー改築の1ユニットである。施設長、管理者、職員は経営環境が変わる中で、利用者が安心して暮らせることを第一に配慮し、利用者の目線で、笑顔で会話する様子は、介護の第一人者としての誇りと、責任感に満ち溢れ、家族からの信頼は深いものがある。料理自慢の職員が作る食事は、新鮮な食材と思いやり一杯で、利用者は満足し、健康的な日々を過ごしている。また、運営推進会議や地域、ホームの行事に、多くの方々が関わり、それを足がかりにした交流は活発で、地域住民との関係は密である。開設して6年目を迎え、地域と共に発展するために、職員の質の向上と質の確保を目指し、存在感のある頼れるグループホームとして、職員全員で努力している「ほほえみⅡ」である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りやミーティング、回覧などで利用者の思いを尊重し、利用者本位のサービス提供について具体的に説明を行う。	開設6年目を迎え、今年3月に経営体制が一新し、現在、職員全員で新しい出発点を目指し、理念変更を検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、盆踊りや運動会へ利用者全員が参加し、多数の公民館行事にも参加している。	盆踊り、運動会、草取り等の地域行事への参加や、避難訓練、夏祭り、クリスマス会などホームの行事に地域の方に参加してもらうことで、気軽にホームに立ち寄ってもらえる日常的な交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催しに参加し、利用者職員で手作りした作品等を展示物として出品している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や行事の報告等を中心に2ヶ月毎に開催している。非常災害時の協力体制や地域行事の情報収集を話し合い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、自治会長をはじめ多くの地域の代表の方の参加があり、行政の担当者、利用者、家族もメンバーとなり、活発な意見交換を行っている。出された意見は、出来るだけホーム運営に活かしていく事を職員全員で目指している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思った事や改善、向上についてのアドバイスを受け、よりよいサービスの向上を目指している。	運営推進会議に参加の行政担当者から、情報提供を受け、会議や行事などに参加することで、市との連携体制を強化している。また、毎月、市の介護相談員の受け入れを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、身体拘束のないケアを実践している。	マニュアルを実践するために内部研修を実施し、利用者が安心して過ごせる環境を目指している。また、玄関の鍵は日中はかけず、近所の方も自由に出入りし、バスの運転手さんもトイレを借りて訪れるなど、開かれた環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止の研修に参加し、ミーティング等で全職員に理念を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、職員が制度に対する理解を深めるよう努めている。入所契約時には重要事項説明書に項目を設けて、説明をしている。	現在、該当者はいないが、契約時に利用者、家族に制度についての説明を行っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の外部研修を受け、伝達研修を行うことで、職員全員が知識を共有し、資料やパンフレットを用意し、いつでも活用できるような体制作りが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、認知症対応型共同生活介護の目的や提供場所について充分説明を行っている。不安や疑問点等は都度対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情体制について説明を行っている。ご家族との面会時には苦情、要望等をお聞きし、ミーティング等で話し合っている。	家族の来訪時や電話などで、利用者の日々の暮らしぶりを説明したり、要望や苦情等を聴き取り、検討し、反映できるよう努力している。	家族の心情を察し、本音を引き出すために、家族だけで話し合う家族会等を設置し、悩み、心配事、希望などを話し合う事の出来る場の提供が望まれる。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開き、職員の意見や提案を参考に改善を図っている。職員の意識を高めよりよいサービスを目指している。	毎月1回、職員会議を全員参加で開催し、様々な課題を話し合い、出来るだけホームの運営に反映させると共に、利用者が安心して過ごすことが出来るホームを目指し、有意義な会議になるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のストレスの要因に樹を配っている。職員の間人間関係を把握するよう努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用・募集に関しては性別や年齢に関係なく介護職における基本姿勢等の資質を重視して採用している。	施設長や管理者は、職員がそれぞれの特技を活かした働きが可能になるように、働きやすい環境の整備と、定期的な研修参加を支援し、職員のやる気を引き出すことで、向上心を持って生き生きと勤務できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム協議会が主催する、人権学習会等に職員が順番で参加している。常に人権に対する意識をもつよう取り組んでいる。	人権に関する研修を定期的に受講し、内部研修により職員間で徹底し、利用者が尊厳を持って暮らすことが出来る体制がある。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に成長してもらう為、ローテーション等で研修を受けに行く機会を作っている。日々、知識や技術等を指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームの職員と交流を持ち、相互訪問している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、管理者、職員が情報を共有し、ご本人が不安に思っている事や希望されている事を、日常生活の中で耳を傾けるように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が希望していく生活観や安心して暮らせる為の要望等を聞きながら、関係を深めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の生活暦や嗜好、要望をよく聞き取り把握しながらサービスをしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入所者を家族同然に温かく見守り、人生の先輩としても日々入所者に学んだり、支えあったりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援していく中で、必要に応じてご家族の協力も得ながら、安心して生活出来るよう支援していく。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各部屋に、ご家族の写真や好きなスターのポスターも貼る等努めている。	家族、親戚、友人、知人の訪問が多く、馴染みの関係が継続している。また、職員は利用者の行きたい所(例えば墓参りなど)、会いたい人などを聞き出し、出来るだけその思いを大切に支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や好みを把握し、利用者同士の関係がスムーズに行われるようにかかわり、見守り支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真やお手紙を送付し、いつでも相談が受けられるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や入所者から思い出話等をお聞きし、より本人本位である介助を目指し、支援するように努めている。	職員は、利用者の思いや意向を、時間をかけて聴きだし、記録し、家族に相談しながら出来るだけ意向に沿うための工夫をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者のこれまでの生活歴、大切な経験や出来事を把握し、その人らしい暮らしをホームの中で活かせる生活を支援する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、入所者から目を離さず手をかざす距離で見守る努力をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時にスタッフ間で話し合い、今後の介護計画について検討している。御家族からは希望や要望を伺っている。	介護計画は6ヶ月毎に見直しているが、利用者の状態変化がある場合には、その都度見直しを図っている。また、家族の要望を聴くために、ホーム来訪時や電話で利用者の状態を説明し、意見、希望を聴きだし、介護計画に反映させている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた点などを詳しく記入し、よりよい介護計画が立てられるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医による週一回の往診。状況に応じて、入院時はスタッフが着替えを届けたり、ご家族に状況を報告したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会、老人会の協力ならびに支援を得ている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的往診、急な受診、予防接種等の支援を実施している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医と提携医を選択している。また、24時間365日の医療連携体制をとり、利用者、家族が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から健康管理を推進してもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に見舞いに伺い、こまめに病状の経過等を聞いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になったときには、職員全員で快適に暮らせるよう努力し、改めて医師、御家族と話し合い意向に沿うようにしている。	入居時に、利用者や家族に対して、重度化や終末期に向けた方針を説明している。また、昨年看取りを経験し、その経験を今後のターミナルケアに活かしていけるよう真摯に取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはかかりつけ医と連携し指示を仰ぐようになっている。救急隊員による応急手当・蘇生術の講習をうけている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員、自治会の方々と避難訓練を実施している。	多数の地域住民の参加を得て、昼、夜間を想定した避難訓練を実施している。また、災害時に備えて、非常食や飲料水、毛布なども用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやプライバシーの配慮について、外部の研修会や内部勉強会を行っている。	職員は、常に利用者の目線に立って笑顔で会話し、また、人生の先輩として利用者を敬愛し、家族の一員としてその尊厳を守りながら日々の介護を行っている。また、個人情報 は、ロッカーで鍵をかけて保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者一人ひとりに合わせて外出したり、献立の希望等を聞いたりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムは流れに沿っているが、一人ひとりのペースを尊重し、気持ちを考慮した支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師による散髪を定期的に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる入所者には手伝ってもらっている。献立は、入所者の希望があれば参考にしながら決めている。	利用者や職員が散歩時に、一緒に摘んだセリや土筆、職員が川に入って取ったしじみ、筍など、旬の食材がふんだんに使われた食事は季節感が溢れ、とても美味しく、利用者と職員は談笑しながらの楽しい食事風景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態に合わせて、飲み物・おやつ等を用意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な方には介助をして行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、オムツの方は紙パンツに替え、トイレの排泄や自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者の一日の生活の流れや排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導などで、利用者の排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の配慮、ラジオ体操、悪天候時以外の散歩などに努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は大まかで決まっているが、寛いだ入浴が出来るよう、入所者の希望に沿うようにしている。	入浴は1日おきで、利用者の希望に出来るだけ合わせて行っている。入浴を拒否される利用者に対しては、職員が気長に説得したり、気分転換を図ったりして、楽しく寛いだ気持ちで入浴できるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、自分のペース等を把握し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには処方された薬等がつけられており用法、用量を把握している。薬の変更や症状の変化等は、申し送りにて確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを活かし役割を作って意欲を持ってもらう。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物へ出かけており、また行事を通して地域へ出る機会を多く持てるようにしている。	毎月1回の夕食、スーパー、ドラッグストアへの買物、また、散歩時のセリ、土筆とりなど、利用者の希望を聞きながら、メリハリのある暮らしを実現するために、外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで管理している。買い物の希望があれば同行し、支払時にお金を渡したりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入所者や御家族が電話や手紙のやり取りを希望した場合は、いつでも出来るように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や設備など一般家庭と同様の物が使用されている。共同の居間は畳み敷きとなり、家庭的な居心地のよい雰囲気である。	以前、スーパーマーケットだった建物を改築したホームなので、外観上家庭的な雰囲気を出すのは難しいが、施設長、管理者、職員は、塗り絵やちぎり絵、折り紙などの大作をホームのいたる所に張り巡らし、温かく家庭的で居心地のよい雰囲気になるように努力している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や、食卓で好きな場所に座られている。一人になりたい時には居室にて過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や使い慣れた生活用品、写真や絵などを置き、心地よく過ごせるように工夫している。	家族の協力を得ながら、利用者が自宅で使用していたタンスや椅子、仏壇などを持ち込み、家族の写真、好きなスターの写真などを飾ることでその人らしい落ち着いた暮らしが出来るよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器歩行、手すり使用等の個々の日常生活動作を把握し、その状況に応じて行えることを見つけている。		